

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
次期がん対策推進基本計画に向けて小児がん拠点病院および連携病院の小児がん医療・支援の質を評価する新たな指標開発のための研究
分担研究報告書

「九州地区における指標開発のための分担研究遂行」

研究分担者 武本 淳吉 九州大学医学部医学科 助教
研究協力者 大賀 正一 九州大学大学院医学研究院成長発達医学分野 教授
古賀 友紀 九州大学大学院医学研究院地域連携小児医療学 准教授

研究要旨

本研究では、日本全体の小児がん患者・家族の利益に反映させることを最終的な目的とする。小児がん拠点病院・連携病院が自施設の QI を継続的に測定することを通して、それぞれの病院が目的意識を持って、PDCA サイクルを回すことができれば、小児がん医療全体の底上げに繋がることが期待される。以上の取り組みから、拠点病院事業および小児がん医療の課題を抽出し、次期がん対策推進基本計画に向けての指標を提言することができる。

A. 研究目的

小児がん拠点病院および連携病院における診療の質を向上させ、日本全体の小児がん患者・家族の利益に反映させることを最終的な目的とする。

- (5) 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会相談支援部会の開催と「小児がんの患者さんご家族のためのサポートブック」の改訂
- (6) AYA 世代（高校生）の入院患者への学習支援

B. 研究方法

主に下記を行った。

- (1) 九州・沖縄ブロック内の長期フォローアップ体制の確立
- (2) 小児緩和ケアチームでのグリーンカードの配布と医療者向けの勉強会を開催
- (3) 小児がん診療における Quality indicator (QI) の作成
- (4) 九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院 TV 会議の開催

C. 研究結果

- (1) 小児がん内科・外科専門医のみならず、内分泌専門医、脳外科、整形外科、精神科神経科、産科婦人科、泌尿器科、眼科、歯科などの各診療科、看護師、小児がん相談員などが連携し、二次がんや晩期合併症の内容に合わせてより適切な診療を提供できるよう、集学的な診療を行う『小児・AYA 世代がんフォローアップ外来』を設置して

いる。地域ブロック内の小児がん連携病院と連携し、標準治療で対応できる小児がんは連携施設で治療を行い、治療を終えた小児がん経験者や小児がん拠点病院で治療を終え、地域に戻って生活する小児がん経験者の長期フォローアップにつなげている。また、ブロック内の長期フォローアップ体制をさらに充実させるため、令和3年10月2日に「小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会」、令和4年2月19日に「小児・AYA世代がん患者に対する妊孕性温存講演会」を開催した。

(2)小児緩和ケアチームの活動の一環として、グリーンカードの配布を行っている。このカードはお子さんを亡くされたご遺族へ死亡診断書と共にお渡ししている。帰宅後にご遺族が当院でのグリーンケアを希望された際に、当院への連絡手段のひとつとなることを目的とし、グリーンケアも積極的に行っている。

(3)拠点病院のQIについては院内の関係各部署に協力を依頼、データを収集し、回答した。連携病院のQIについてはブロック内の小児がん診療の質を可視化するため、連携施設へ協力を要請した。

(4)九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会構成施設に、隣接する中国四国ブロックの小児がん拠点病院である広島大学を加えた全17施設が接続するTV会議を毎月第4月曜日に開催している。会議では、各施設が持ち回りで当番施設を担当し、症例発表や小

児がんに関するテーマを決めた討論会を行っている。また、九州・沖縄ブロック小児がん看護ネットワーク会議を年3回、勉強会（講演会）を年1回行った。九州・沖縄地域の17施設が参加し、小児がん看護に関する事例検討や意見交換を行っている。

(5)九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会相談支援部会を年1回開催している。今年度は第6回相談支援部会を令和4年1月7日に開催し、中央連絡会議の報告や各施設の終末期の在宅移行、AYA世代への意思決定支援について情報共有を行った。また、「小児がんの患者さんとご家族のためのサポートブック」を改訂し、広く活用できるようにホームページに掲載している。

(6)令和2年度より、高校生の入院患者を対象とした学習サポーター（学生アルバイト）を配置し、週2回学習サポートを行っている。また、長期療養を必要とする高校生への教育支援について、県の取り組みや今後の方向性等について把握し、協力を依頼するために教育委員会へ働きかけを行った。

D. 考察

コロナ禍においても、医師、看護師、多職種がそれぞれの分野にてWeb会議システムを利用したカンファレンス、研修等を継続的に行い、地域の小児がん診療に係る実情、課題を収集し、最新の小児・AYA世代がん診療と支援についての意見交換や情報共有ができる環境を整えている。小児がん

患者の80%が治癒されると言われるようになり、長期療養を必要とする患者の教育環境や妊孕性温存等のさらなる支援が必要である。

E. 結論

各地域のがん診療やがん患者・家族への支援体制の現状をWeb会議等で共有することにより、地域ならではの問題点や課題を把握できた。小児・AYA世代がん患者が治癒した後もQOLが高い生活が出来るよう、今後も連携病院、行政、患者会等と連携を図りながら問題解決に取り組み、治療開始から長期フォローアップまでシームレスな医療の実現を目指していく。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし